



AKITA

[9月]

県内経済

概況

県内経済は、全体として持ち直しの動きが続く中、一部に弱い動きがみられる

木材の生産は堅調に推移しているが、電子部品、機械金属は減少が続いている。建設は、公共工事が増加傾向で推移しているが、住宅着工は消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動などで弱い動きとなっている。個人消費は持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は一部で改善の動きが弱まりつつあるが、高水準を維持している。

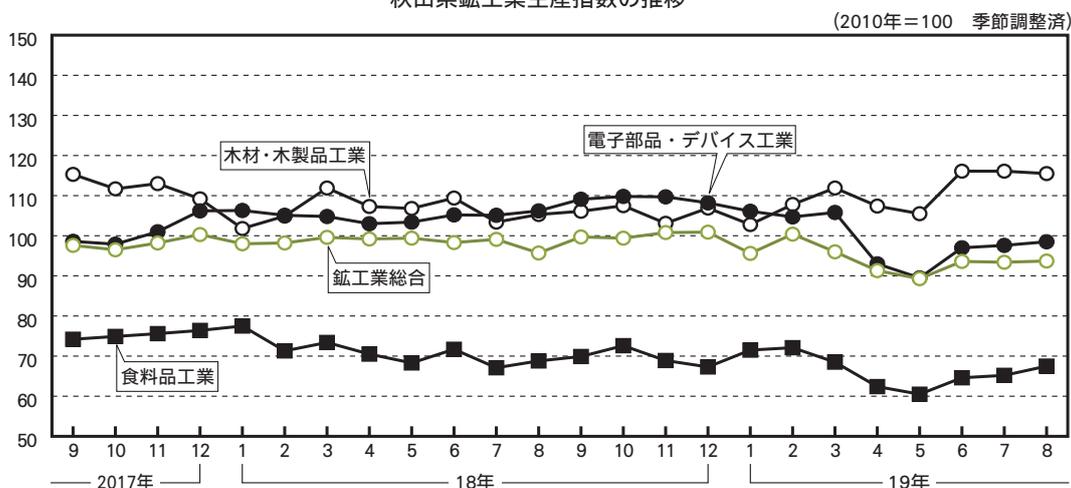
産業別の動向では、電子部品の生産額は、スマートフォン向けの減少が続いているほか、車載向けも米中貿易摩擦の影響などから減速し、4か月連続で前年を下回った。機械金属の生産額は、輸送機械で海外向けが落ち込み、2か月連続で前年を下回った。木材は、普通合板（8月）、製材品ともに堅調に推移している。公共工事請負額は、3か月連続で前年を上回り、年度累計でも前年を上回って推移している。地元大手（12社）の建設受注額は、民間工事が増加し、3か月連続で前年を上回った。住宅着工は、前年にマンション着工（2棟）で大幅に伸

びた反動などもあり、3か月連続で前年を下回った。個人消費は、小売店販売額（8月）および新車乗用車販売台数が前年を上回り、全体として持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下の1.41倍となった。新規求人数は前年比7.7%減となり、5か月連続で減少した。事業主都合離職者数は12.9%減となり、2か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数は4件、負債総額は6億8,000万円であった。倒産件数は2012年11月以降、一桁台またはゼロ件で推移している。

秋田県鉱工業生産指数の推移



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

生産額、前年比減少続く

9月の生産額は前年比7.8%減と4か月連続で前年実績を下回った。スマートフォン向けは減少が続いており、電装化や電動化で成長を続けてきた車載向けも、海外向けの不振から減速している。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは産業機械向けが落ち込んでいることなどから減少傾向が窺え、半導体素子、産業向け液晶パネルは減少に歯止めがかかっていない。

なお、7-9月期は前年同期比7.4%、2019年度上半期は同4.2%、それぞれ減少した。



(当研究所調べ、県内4社)

機械金属

生産額、2か月連続で前年比減少

9月の生産額は前年比9.4%減と2か月連続で前年実績を下回った。ウエイトの高い輸送機械において、国内向けは好調なもの、海外向けが落ち込んでいることから、減少が続いている。

その他の民需関連では、製鋼品は堅調に推移しているものの、持ち直しの兆しが見られていた金型、建機部品とも減少に転じている。公共工事関連では、水道部品、橋梁・鉄骨とも減少が続いている。

なお、7-9月期は前年同期比6.6%、2019年度上半期は同5.3%、それぞれ減少した。



(当研究所調べ、県内8社)

木材業

普通合板、製材品とも堅調推移続く

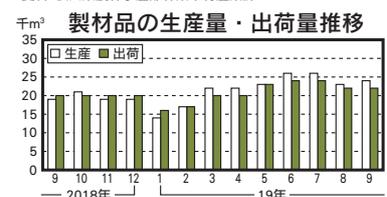
全国的に、新設住宅着工戸数はこのところ減少傾向にあるものの、木造の床面積は落ち込み少なく、普通合板、製材品の出荷量も足許は前年実績を上回っている。県内においても、普通合板、製材品とも引き続き堅調推移が続いている。

8月の普通合板は、生産量が前年比2.4%減と減少したが、出荷量は同0.2%増と小幅ながら5か月連続で前年を上回った。生産量が出荷量を上回ったため、在庫量は前月より増加したが、前年比では36.4%減と4か月連続で前年を下回った。

9月の製材品は、生産量が前年比26.3%増、出荷量は同10.0%増と、引き続き増加基調を保っている。



資料：秋田県農林水産部林業木材産業課



資料：農林水産省「製材統計」

酒造業

出荷量、一部で駆け込み需要が生じ前年比増加

9月の清酒出荷量は、前年比6.5%増と2か月ぶりに前年を上回った。消費税率引上げを翌月に控え、一部で駆け込み需要が生じ出荷量を押し上げた。出荷先別では、県外向けが同3.9%増で、県内向けは同12.3%増と急伸した。県外の主な出荷先別では、東京が同0.2%増、東北5県も同5.0%増となり、北海道は同19.3%増と前年比二桁の増加率となった。

清酒の種類別では、普通酒は前年比8.0%増、特定名称酒は同4.6%増と、ともに増加した。特定名称酒の内訳では、本醸造酒が同0.8%増、純米酒は同1.3%増、吟醸酒も同8.9%増と、いずれも前年を上回った。



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国、県、市町村とも増加し、3か月連続で前年比増加

9月の公共工事請負金額は、国、県、市町村等がいずれも増加し、前年比13.2%増と3か月連続で前年を上回り、年度累計でも前年同期比10.8%増と前月に引き続き二桁の伸び率を維持した。

一方、当研究所調査による地元大手12社の9月の新規受注額も、前年比5.5%増の2,277百万円と3か月連続で前年を上回った。うち官公庁工事は同4.8%減となったが、民間工事は、児童福祉・教育施設新築等の大口受注が寄与し、同47.0%増と前年を上回った。年度累計の受注実績でも前年同期比15.6%増と、二桁の伸び率を維持した。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	9月	前年比	4月～9月	前年同期比
件数	303	△5.3	1,834	△1.8
請負金額	14,699	13.2	115,963	10.8

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	9月	前年比	4月～9月	前年同期比
官公庁	1,648	△4.8	13,884	30.7
民間	629	47.0	4,016	△17.5
合計	2,277	5.5	17,900	15.6

(当研究所調べ、県内12社)

金融

預金、貸出金とも前年比増加率が鈍化

9月末の県内銀行の預金は、前月末比570億円減少したが、前年比では0.8%の増加となった。貸出金は、前月末比50億円増加し、前年比でも0.8%の増加となった。預金、貸出金ともに前年を上回って推移しているものの、伸び率は前月に比べ鈍化した。

9月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は4件(前年比3件増)、負債総額は6億8,000万円(同3,478.9%増)となった。倒産件数は2012年11月以降83か月連続で一桁台または0件で推移している。負債総額は、秋田市の飲食店・宴会場経営者の負債額約6億円が押し上げた。



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

減少傾向が続く

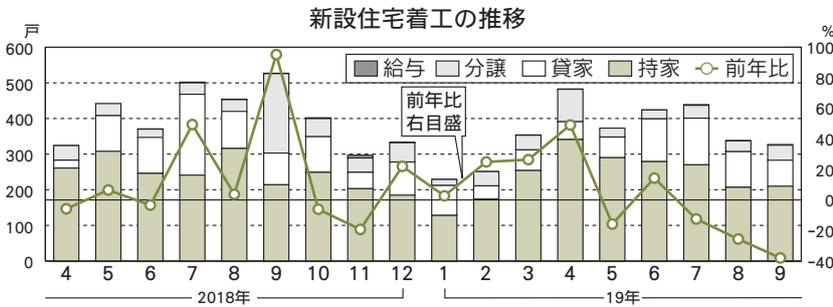
9月の県内新設住宅着工戸数は、327戸（前年比200戸減、38.0%減）であった。持家と貸家が減少したほか、分譲住宅も大幅に減少し、3か月連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家が210戸（前年比4戸減）、貸家が73戸（同16戸減）、分譲住宅が42戸（同181戸減）、給与住宅が2戸（同1戸増）となっている。

持家は2か月連続で前年を下回った。貸

家は秋田市で民間の賃貸住宅が大幅に減少したほか、公営住宅も減少し、3か月連続で前年を下回った。分譲住宅は前年同月にマンション着工（2棟、計186戸）があり増加した反動から、2か月連続で減少した。

地域別では、持家と貸家の着工が増加した県北のみが、前年を上回った。県央と県南は持家、貸家、分譲住宅の着工が減少し、前年を下回った。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2019年9月	前年比	19年1~9月	前年比
県北	71	16.4	645	3.2
県央	184	△52.3	1,702	△14.4
県南	72	△10.0	871	22.5
合計	327	△38.0	3,218	△3.2

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

持ち直しの動き

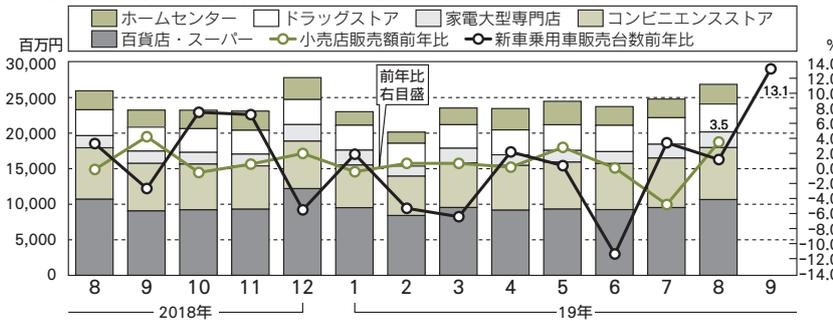
8月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、合計で前年比3.5%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。家電大型専門店（同29.3%増）で大きく増加したほか、ドラッグストア（同7.9%増）、ホームセンター（同4.0%増）、コンビニエンスストア（同0.9%増）でも増加した。

百貨店・スーパー販売額は、前年比0.4%

減となった。衣料品は、紳士服を中心に動きがみられ、3か月ぶりに前年を上回った。飲食料品は全般的に振るわず、4か月連続で前年を下回った。

9月の新車乗用車販売台数は、前年比13.1%増の3,990台となった。登録車、軽乗用車ともに増加し、3か月連続で前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

9月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	3,990	13.1
登録車	2,240	14.2
普通車	992	20.8
小型車	1,128	8.1
輸入車	120	22.4
軽乗用車	1,750	11.7

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	6月	7月	8月
①消費者物価指数	0.7	0.5	△0.2
②勤労者名目賃金	△1.7	0.1	△3.7

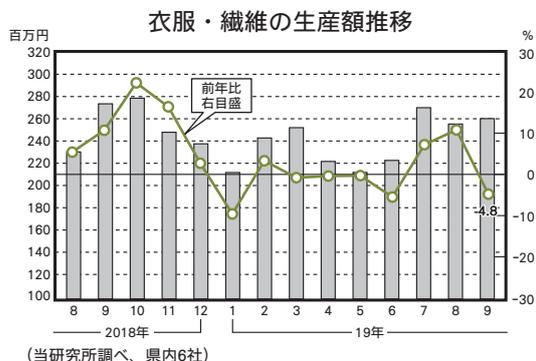
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、3か月ぶりに前年比減少

9月の生産額は、前年比4.8%減となった。秋冬物の生産がピークを迎えているものの、小ロット化傾向にあり3か月ぶりに前年を下回った。

受注も、消費税率引上げ後の動きを見極めようとするなか定番品を中心に減少し、3か月ぶりに前年を下回った。



雇用

有効求人倍率は1.41倍、高水準続く

9月の有効求人倍率は、1.41倍となった。前月比0.01ポイント低下したものの、高水準が続いている。常用の内訳では、一般は前月比0.02ポイント上昇の1.37倍、パートは同0.03ポイント上昇の1.46倍となった。

新規求人数は前年比7.7%減となり、5か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同11.0%減となった。「木材・木製品」、「食料品」で増加したものの、「情報通信機械」、「電子部品・デバイス・電子回路」、「電気機械器具」で二桁の減少率となった。非製造業は同7.3%減となった。「情報通信」や人手不足が続く「建設」、「医療種別・新規求人内訳および新規求職者数 (全数)

療、福祉」で増加したものの、「運輸、郵便」、「サービス」、「宿泊、飲食サービス」で二桁の減少率となったほか、その他の業種でも減少した。

新規求職者数は前年比5.3%増と、2か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は、前年比12.9%減となり、2か月連続で前年を下回った。

地域別雇用状況 (パートを含む常用) をみると、新規求人数は県南で増加したものの、県北、県央で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.63倍、県南が1.41倍、県央が1.30倍となった。

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区 分	2019年6月	7月	8月	9月
有効求人倍率	1.34	1.33	1.35	1.37
常 用	1.34	1.37	1.43	1.46
パートタイム	1.49	1.42	1.42	1.41
全数 (季調済)	1.49	1.42	1.42	1.41
事業主都合離職者数	245	337	127	189
前年比	34.6	116.0	△30.6	△12.9

9月の地域別雇用状況 (パートを含む常用)

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前月比	前年比	前月比
県北	1,802	△10.5	1.63	0.01
県央	4,041	△3.0	1.30	0.02
県南	2,187	3.5	1.41	0.03
合 計	8,030	△3.2	1.40	0.02

区 分	2019年8月	前年比	9月	前年比
新規求人計	8,278	△13.5	8,894	△7.7
製造業	784	△25.7	950	△11.0
食料品	142	△38.8	214	21.6
繊維	142	△33.3	181	△2.2
木材・木製品	35	2.9	44	46.7
電子部品・デバイス・電子回路	74	△45.6	104	△47.5
電気機械器具	45	△47.1	54	△10.0
情報通信機械	35	191.7	1	△83.3
非製造業	7,494	△11.9	7,944	△7.3
建設	896	3.3	1,150	9.2
情報通信	34	△54.1	61	17.3
運輸、郵便	385	4.3	346	△33.7
卸売、小売	1,475	△17.2	1,509	△0.1
宿泊、飲食サービス	1,126	△2.7	1,168	△18.9
生活関連サービス、娯楽	256	△31.0	376	△7.2
医療、福祉	1,657	△10.8	1,702	9.2
サービス	779	△36.8	904	△25.5
新規求職者数	3,513	△6.0	3,840	5.3
有効求職者数	15,552	△0.3	15,602	1.1

資料：秋田労働局職業安定課 (注) 臨時・季節を含む。

(注) 臨時・季節を除く。